

平成29年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

増田 美里¹⁾, 瀬尾 真紀子¹⁾, 前田 佐紀²⁾, 久原 里菜²⁾

¹⁾静岡県立大学 食品栄養科学部 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

²⁾長崎国際大学 薬学部 〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7

Report on the 9th practice of student meeting held in annual meeting on Society of indoor Environment, Japan 2017

Misato MASUDA¹⁾, Makiko SEO¹⁾, Saki MAEDA²⁾ and Rina KUBARA²⁾

¹⁾School of Food and Nutritional Sciences, University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526, Japan

²⁾Faculty of Pharmaceutical Sciences, Nagasaki International University, 2825-7 Huis ten Bosch, Sasebo, Nagasaki 859-3298, Japan

Key words: 学生懇談会(Student Meeting), 交流(Interaction), ディスカッション(Discussion)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は、2009年に第一回が行われてから今年で9回目を迎えます。学生懇談会は、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として、大学や専攻・学年の垣根をこえて交流が行われています。今回の第9回の学生懇談会では28名の参加があり、大きな盛り上がりを見せました。

本報告書では、当日の進行と記録を、学生世話人が参加者を代表して報告します。

2. 実施概要

日 時：2017年12月13日(水) 13:30~14:30

場 所：佐賀市文化会館(3F 和室)

テーマ：Interaction

学生世話人：

増田美里(学生会員, 静岡県立大学)

瀬尾真紀子(学生会員, 静岡県立大学)

前田佐紀(学生会員, 長崎国際大学)

久原里菜(学生会員, 長崎国際大学)

プログラム：

- 1) 開催趣旨説明
- 2) 参加者の自己紹介
- 3) グループディスカッション
- 4) まとめ

スタイル：ランチョン形式

参加者：静岡県立大学(男性1名, 女性4名), 長崎国際大学(男性3名, 女性6名), 東海大学(男性11名, 女性1名), 横浜国立大学(男性1名), 愛媛大学(男性1名), 計28名

3. 実施内容

3.1 開催趣旨説明

はじめに、学生世話人から学生懇談会の設立の経緯と今回の開催趣旨についての説明が行われました。

この学会に参加する学生は、専門としている研究分野が様々ですが、「室内環境」という共通点があります。今回の学生懇談会では、それぞれが研究生活を振り返り、今までの研究や将来について、自由にディスカッションしようと考えました。この懇談会における様々な学生との交流を通して、共感や新たな発見などを得て、互いに刺激を受け合い、視野を広げられる交流の場にしたいという意図から、今年の学生懇談会のテーマを「Interaction」としました。

3.2 参加者の自己紹介

学生懇談会は、参加者の自己紹介から始まりました。所属大学と学年、氏名に加え、一言(自分の研究内容)を、参加者全員からいただきました。自己紹介だけでも、参加者それぞれの個性が出ていました。自己紹介の時間が過ぎていくにつれ、参加者の緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になっていきました。

3.3 グループワーク

今回の学生懇談会では、他の大学の学生とより多く交流できるように工夫しながら、グループ分けを行いました。懇談会は参加者が多かったこともあり、5、6人のグループが5つもできました。学生世話人から2つのテーマが与えられ、参加者が与えられたテーマに沿って自由に意見を出し合い、最終的にグループごとに意見をまとめて発表しました。今回の2つのテーマは①自身の研究から得られたこと・学んだこと、②将来どのような自分になりたいか、としました。与えられたテーマについて一人一人が意見を一方的にただ発するのではなく、学生同士で質問あったり、互いの経験話しあったりすることで、自由な雰囲気話題を共有しました。学生懇談会では、飲み物とお菓子を用意しているので、参加者は飲み物を飲んだり、お菓子を食べたりしながら、楽しい雰囲気テーマについて話し合っていました。



写真1 グループワークの様子1

1つ目のテーマ「自身の研究から得られたこと・学んだこと」では、各参加者がグループ内で自由に発言しました。そして、グループ内で話された内容をグループの代表者がまとめて発表し、グループ内だけではなく、参加者全員で意見を共有しました。研究から得られたこととしては、「意見交換の大切さ」などが挙げられました。研究を通して、「自分の言いたいことを相手に正確に説明することの難しさ」に気づいたという参加者もいました。研究をしていく中で、人とのコミュニケーションの大切さや難しさを学んだという学生が多かったようです。また、研究はいつもうまくいくわけではなく、地道な作業が多いことから、「地道な努力」や「やってみないとわからない」、「めげない」などの意見や、研究活動をしていく中で、学会への参加などの機会に「社会人

としてのマナー」を学んだという意見も挙がりました。各グループ内でディスカッションしていく中で、それぞれの参加者の研究や研究室の様子なども垣間見ることができ、各グループの参加者同士が打ち解けていくのを感じました。

2つ目のテーマである「将来どのような自分になりたいか」では、参加者それぞれの個性が見えました。現在研究をしていく中で、「科学的な視点で物事を見られる知識人になる」という意見や「今のうちに失敗をして経験をためていきたい」という意見が挙がりました。また、「薬剤師になる」など具体的な意見もありました。「健康」や「お金に困らないように」などの意見もある一方で、「後世に何かを残せる人」や「パイオニアになる」など、野心的な意見も多くあり、グループディスカッションが盛り上がっていききました。



写真2 グループワークの様子2

最後に、まとめとして、今回の学生懇談会の感想を発表してもらいました。「他の大学の人と交流できて有意義な時間を過ごせた」という感想が多く挙がり、参加者皆が同じように感じていることが伺えました。



写真3 学生懇談会 集合写真

4. まとめ

今回の学生懇談会は「Interaction」というテーマのもと、普段なかなか交流する機会の少ない学生同士が交流できる良い機会であったと思います。また、今回は多くの学生の参加があり、それぞれの学生が様々な経験をしていたり、様々な考え方を持っていたりしたため、今年のグループディスカッションはかなりの盛り上がりを見せました。ユニークな考え方を持った人や、高い意識をもって研究に打ち込んでいる人など、様々な学生が本学会には所属していることを、グループディスカッションを通して気づくことができ、また、そのような人たちと交流することで、お互いにより刺激を受け合えたと思います。

今回の学生懇談会での交流を通して感じたこと、刺激を受けたことは、今後の大きな励みとなり、研究生活だけでなく、社会に出た後にも役立つ、大いに有意義な活動であったと思いました。

今後、このように大変有意義な学生懇談会を更に盛り上げていくために、今回のようなグループディスカッションだけではなく、更に工夫をしていくことが重要であると思います。

5. 平成30年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施のお知らせ

開催日：平成30年12月6日(木)

会場：東京工業大学大岡山キャンパス
(東京都目黒区)

参加：事前申し込み不要、お弁当持参可

※学生会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。